

平成19年9月3日

## 「荒川区公立保育園の充実」に関する要望書

荒川区公立保育園父母の会連絡会  
会長 筑本 知子

日頃より、保育園の充実と発展にご尽力いただき感謝しております。

さて、社会状況の変化にとまなない、保育園を利用する保護者においても、労働時間の長期化、核家族の増加等の様々な状況の変化があります。そういう中で、保育園は子どもの昼間の生活のみならず、育ちにも関わる大切な場と考えております。

わたしたち、子育てを荒川区で行っている立場として、子育て支援を掲げる荒川区に期待することは、「子どもたちの最大の利益」を前提に、子どもたちが安全に、また心身健やかに成長できる環境を更に充実させていただきたいということです。そこで、荒川区の保育園事業に関して、以下の様に要望します。

### 記

1. **延長保育の全園での実施と定員の拡大**～延長保育について、年々拡充していただいておりますが、現状では少なからず待機者が出ている状況です。また実施園が遠方にあるため、遠距離通園を余儀なくされている場合もあります。補完するものとして、ファミリー・サポート事業も実施いただいておりますが、地域によっては協力会員が見つからない状況にあり、また二重保育による子どもの負担も大きいようです。つきましては、是非とも定員の拡大と全園での延長保育の実施を要望します。
2. **病後児保育の充実**～病後児保育の実施園が非常に少なく、利用しにくい状況です。実施園の拡大、あるいは在宅保育支援等の実施を要望します。
3. **全園でのアレルギー代替食提供**～現在、給食民間委託を導入した園でのみアレルギーの代替食が提供されている状況です。調査によると、アレルギー対応が必要な乳幼児は各園平均10人程度（全体の約1割）となっています。民間委託・直営にかかわらず、早急にアレルギー代替食の提供等の対応を検討いただきたいと思います。
4. **保育園給食委託拡大の中止**～平成18年4月から2園で実施開始した給食の民間委託ですが、19年度の入札不調のみならず、実施園でも1年半という短期間の間に調理士の交替、非常勤栄養士の交替等がおきており、利用者としては非常に不安を感じる状況になっております。「サービス向上を効率的に行うために、民間委託をすすめる」というのが区のキャッチフレーズです。不安を感じる利用者が少なからずいる現状において、「サービス向上」がどの程度か、またどのぐらいの効率化がはかれているのか、問題はないのか等々、本事業の拡大を一旦中止し、時間をかけてきちんとした検証を行い、本当のサービス向上めざし、利用者が不安を感じないようなシステムの再検討を御願いたします。

以上